



ゾウに乗ったゾウ

あなたはゾウに乗ったこと、ありますか？

今回学芸通信を担当する学芸員 M はタイで体験してきました！

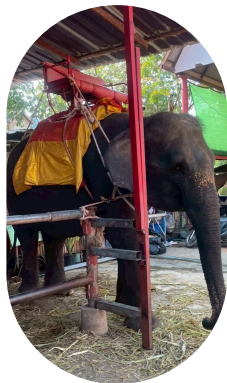
大きな背中に乗って、ゆっくりノッシノッシと進むあの感じ。

高い位置から見渡す景色は、視界がぐっと広がる不思議な感覚があります。動きはどこか穏やかで、歩くリズムに合わせて体も自然とゆったりしていきます。

ちょっとした緊張感もあって、なかなか日常では味わえない特別な体験でした。

こうしたゾウに乗る体験は、日本を含むアジア各地で見ることができます。

今回は「ゾウに乗れる地域」をテーマに、その広がりや背景をご紹介します。



日本から行きやすい？
象に乗れる国(学芸員 M 調べ)

ゾウに乗れる国は、東南アジアや南アジアに多くあります。タイ・インド・スリランカ・ネパール・ラオスなどが代表的です。アジアにゾウが広く生息している理由は、温暖な気候で雨が多く、森林や草原が広がっていることをはじめ食べ物となる植物が豊富にとれるから。そしてこれらの地域では古くからゾウと人が共に暮らしてきた歴史があります。例えばインドでは、ゾウの姿をした神「ガネーシャ」が信仰されており、ラオスでは農作業や荷物の運搬を支える働き手として活躍してきました。現地ではゾウの世話をするゾウ使いの人を「マホート」と呼び、長い時間をかけて強い信頼関係を築いてきました。ゾウに乗る体験は、こうした人とゾウの関係の延長にあるのです。

野外民族博物館 リトルワールドには、ゾウにゆかりのある地域の展示や家屋があります。実際にタイやネパールなどのエリアではゾウが実際に暮らしてきた地域のくらしや文化を、建物や生活の様子から感じることができます。他に本館での展示においては現地での人とゾウの関わりや、宗教・暮らしの中での位置づけなども知ることができます。また、ゾウをモチーフにした装飾やオブジェも点在しています。園内はエリアごとに文化が分かれているため、歩きながら見比べていくのも楽しみ方のひとつです。「ここにもゾウがいるかも？」という視点で探してみてください！



ゾウを“見る・知る・探す”視点で園内を歩いてみると、展示の中にある工夫や文化のつながりが見えてくるかも。いつもとは少し違う目線で見ってみることで、見慣れたリトルワールドの中から新しい発見に出会えるかもしれません。